

ご通行中のみなさん、こんにちは。

私たちは保育・学童保育の保護者と保育士、学童保育指導員です。

保育・学童保育・子育て支援の充実を求めて署名をしています。ご協力をよろしくお願いします。

学童保育は、働く保護者をもつ子どもたちが、小学校の放課後や夏休みに過ごす毎日の「生活の場」です。私たち保護者・指導員は、「安心して働きたい」「子どもに豊かな放課後を過ごしてほしい」と願い、学童保育の充実を願っています。現在、学童保育には、全国で135万人、大阪で7万人を超える子どもたちが通っています。

学童保育は、小学生の子どもが学校をおえて、「ただいま～」と帰ってくる安心な場所です。気心のしれた楽しい仲間、信頼できる指導員といっしょに過ごします。放課後や夏休み、あそんだりケンカもしながら、たくさんの経験をつみ、子どもたちは豊かに育ちあっています。

3年に及ぶコロナ禍でも原則開所してきた学童保育は、保育所と同様に、子ども・保護者・社会にとって必要な施設です。「学童があるから、安心して働くことができる」「共働きやひとり親家庭にとって、なくてはならない場所」「障害があったり、苦手なことが多い子どもたちも、学童保育では子どもの思いが受け止められて、たくましく育ってうれしい」など。お母さん・お父さんから、「学童があって良かった／もっとよくしてほしい」との声が寄せられています。

私たちは今、保育・学童保育で国会や大阪府議会に向けて請願署名に取り組んでいます。約70年間変わらない保育所の基準をよくしてほしい。学童保育も、1部屋の基準は40人ですが、実際は1部屋に50人・60人・70人の子どもがギューギューづめになっている現状があります。1部屋の子どもの多すぎると、子ども同士の関係づくりや安全確保さえもむずかしくなります。子どもたちは「自由がほしい」と言っています。学童保育は1部屋40人以下、できれば30人以下にして、安全安心で、自由に過ごさせてほしいのです。

また学童保育に入れない待機児童は、全国で1万7000人と発表されています。実際に把握されていない学童待機児童はもっと多く、学童保育はまだまだ足りていないのが実態です。

学童保育が足りないのは、「施設整備」と「働く指導員」が不足しているからです。

国は、学童保育の「施設」が足りないなら、学校の「音楽室や家庭科室、理科室、図書室など、特別教室を、午後の時間だけ一時借り・タイムシェアで使ったらよい」と言っています。しかし毎日、移動用の畳やランドセルをしまうロッカー、あそび道具など、膨大な備品を動かし、夕方は現状復帰でもとに戻す作業は大変なもので、子どもたちがホッとして安心できる場になりません。国は、こどもまんなか社会をめざすとかかげました。学童保育のことも、専用施設をふやすと、国が責任をもって予算をつけてほしいと思います。

また、学童保育指導員の不足は、全国や大阪府内どこも深刻です。学童保育指導員は、子どもを見るだけ、昼からの仕事と軽く思われがちで、処遇もとても低いままです。しかし小学1年生から6年生までの多様な子どもを理解し、安心できる環境をととのえ、豊かな経験を支えるために、学童保育指導員は豊富な知識や経験が求められる専門職です。地域の子ども・子育てを支えるため、学童保育指導員が安定的に働き続けられる体制づくりが必要です。こどもまんなか社会にしていけるために、学童保育に正規職員、フルタイム職員を配置し、指導員の処遇改善がなされることが喫緊の課題になっています。

いま、保育・学童保育の充実を求める請願署名にとりかかっています。どうかみなさん、保育・学童保育を充実する署名にご協力をおねがいします。(ありがとうございました。)